

子あり、少しむきやうの早き時は、右のごとし、それもさしてかまいなし、毛かはきて臍の緒もかたく干あがる物也、其時臍の緒長く干たる時は、子歩行にじやま成るによつて、干あがりて後そつと邪摩にならぬ様に、はさみ切ておくがよし、二三日たつうちに、いつともなく干て、肉際より落る也、かまひもなき物なれども、少しむきやう早き時は、右のごとし、むく時節をよく考べし、
〔嬉遊笑覽禽十二〕錦雞、孔雀、紫鴛、雁、鳧等の卵、みな雞に抱かせてかへすに、大かた雞と同く、三七日にてかへるものなり、その内孔雀は一月を経ざればかへらず、錦雞は卵四ツばかりならでは生ず、孔雀は十四五も生む、鳥ひよどりは二ツ三ツに過ず、凡雞ほど卵多く産ものなし、大かた一月の内に十二ばかりは生べし、飼ふに費多きものは丹頂の鶴なり、一日の料鰻鱺銀三匁、泥鱸三匁五分、玄米二升なり、一年に積りて凡金二十二兩許り、飼料にのみかゝる、是も卵は二ツ産み、伏する事四十五日、五十日にてかへるといふ、

〔空穂物語 藤原の君〕兵衛つねにみぢらぬやうなりと聞ゆれば、例のこのたまへかしなどのたまひて、かきつけ給、

はま千鳥ふみこし浦にすもりこのかへらぬ跡はたづねざらなんとこそは、君の御ことにては、のたまへるなれとの給、

〔古今和歌六帖二〕きじ

年をへてかへりかた野のすもりこの君にしあへば飛立ぬべし

〔拾遺和歌集七〕いぬかひのみゆ

鳥の子はまだひな、がらたちていぬかひのみゆるはすもりなりけり

〔兼輔卿集〕人のはらからの物へゆきけるにかはりて、

ひとつすにかへりはるれど濱千鳥まばしもたえばわびしかりける

よみ人しらす